

個別報告②

地域と共に J A 愛知東が目指す 相互扶助の土壌づくり

～東三河の水と緑と食を活かす J A を目指して～

愛知東農業協同組合 代表理事組合長
河合 勝正

講演要旨

J A 愛知東の管内は90%が山林地域で、高齢化率も高い農山村地だ。しかし、地域は自然の宝庫であり、その中で生き抜く知恵や技を持つ元気な高齢者がたくさん存在する。そうした昔からの農村の姿や暮らしを大事にしていくことが必要ではないだろうか。

地域住民が求める願いは6つあると言われるが、立地の不満を除けば努力次第で叶えることは可能だ。その実現のため、J A 愛知東は協同組合として「小さな組織、集まる組織」づくりの支援活動に取り組んでいる。

現在、女性部を中心にさまざまな取り組みを実践しているが、その基本的スタンスは「農村と農業をどうやって自立支援していくか」にある。J A 自らも自立の道を探りながら、「3つの幸せ運動」「3つのしんか（真価、進化、深化）」を目指し、少しずつ成長していければと考えている。

目次

- | | |
|---------------|-----------------------|
| 1. J A 愛知東の概要 | 4. J A 愛知東の取り組みの一例 |
| 2. 自然の宝庫 | 5. 地域に容認される J A を目指して |
| 3. 地域資源で人づくり | |

1. J A 愛知東の概要

私ども J A 愛知東は、長野県と静岡県境に面した愛知県の北東部に位置しています。管内の面積は約1,000平方キロで、愛知県の約5分の1という広い管内となっております。

しかし、人口はもう6万人を切ろうとしており、1年に800名から1,000名の人口が減少している地域です。新城市を除く2町1村については高齢化率が45%を超えており、しかも90%が山林地域という、まったくの農山村です。

現在、組合員は1万4,332名です。けっして人数は多くはありませんが、女性組合員が3,000名近くもいます。役員は現在31名です



が、女性理事が2名、女性監事が1名おり、愛知県内では女性役員の登用が一番早かったのではないかと考えています。

2. 自然の宝庫

続いて、私どもの地域の自然環境について少しご紹介したいと思います。

私どもの地域には国が指定する天然記念物・名勝が6か所ございます。それから県指定、市町村指定のものや、『自然系の「日本百選」』とされているところが12か所ございます。

もう1つの特徴は、3つの1級河川の源流域にあるということです。下流域には多くの皆さんが暮らしとおみえですから、極めて重要な地域であるという認識に立っております。

管内を紹介したいと思います。阿寺^{あてら}の七滝が「日本の滝百選」に、鳳来寺山が「日本の地質百選」に選ばれておりまして、いずれも国の指定名勝・天然記念物になっています。次が、「新日本名木百選」に選ばれている甘泉寺^{かんせん}のコウヤマキです。これも国の天然記念物となっています。それから湯谷温泉が「日本の温泉百選」に選ばれておりまして、何年か前には民放の温泉番組で「日本一の温泉」という評価をいただいたこともあります。次は「日本の棚田百選」に選ばれた四谷千枚田です。何年か前には全国棚田サミットがこの地で開催されました。それから、今がちょうどシーズンですが、川売^{かわうり}の梅園が「にほんの里百選」に選ばれています。

3. 地域資源で人づくり

(1) 技人を活かす活動

このような地域ですので、やはり昔からの農村の姿、暮らしを大事にしていくことが必要ではないかと考えています。

地域の人口は減っておりますが、幸い、元気な高齢者や女性の皆さんが多くおみえでありますし、その皆さんは自然の中で生き抜くさまざまな知恵や技を等しく持っておりまして、

ふるさと農村の力を活かす

②地域資源で人づくり

自然の恵みをいただき、自然の中で生き抜く技、知恵の伝承

◆自然の恵み → 春は山菜、秋は自然薯、山菜
そしてジビエ料理、木、竹、ワラ
農産物などの加工品など

＜技人百一人衆の指定＞

→ 自然の尊重という日本人の精神文化
日本の和食がユネスコの無形文化遺産に登録

なります。そうした人たちの居場所と言いますか、活躍する場をなんとかつくり上げていきたいということで、JA愛知東の管内4市町村をまとめた技人バンクみたいなものを立ち上げたいと思い、今、4市町村の教育長さんとお話をさせていただき、技人の選定を急いでいるところです。

実は、二十数年前には県の補助金をいただき、農業改良普及所と一緒に「ざ・とよね百一人衆」をつくり上げました。いろいろな技術や知恵を持っている豊根村の皆さんを地区ごとにピックアップし、技人の活動をしていただいております。しかし二十数年が経ちましたので、101人のうち3分の1ぐらいの方が残念ながらお亡くなりになっている状況です。そこで改めて、広域の技人バンクみたいなものを立ち上げたいと考えています。

(2) 農業と健康寿命

2つ目に、この地域に住む人たちの健康維持をどうしていくのかが、ひとつの問題・課題であると思っております。

これについては厚生連さんからもいろいろな面でバックアップをいただいておりますし、市町村あるいは社協、NPO法人等々広い範囲からご支援を賜っておりますが、私ども

J Aとしてはやはり農業に関わっておりますので、「農業と健康寿命」について注目をしていきたいと思っております。当然ながら、「医食同源・身土不二」にもこだわります。昔から人と土はずっといろいろなことでつながりがありますので、そこにもこだわって進めていく必要があると考えております。

また、先ほど早川先生から「アンケート調査」のお話がありましたが、私どもの地域も一緒にアンケート調査をさせていただきましたので、健康に関する部分だけを少しピックアップしました。約1万4,000人の組合員の全戸に配布し、9,000人を少し超えるくらいの回答をいただいています。

結果は、多くの方が60歳以上ということで高齢化になっていますが、70%以上の方が「健康と思う」と言っておられます。一方で「あまり健康と思わない」という回答も20%くらいありますが、実は地域ごとにクロス集計をさせていただきましたので、どちらかと言うと市街地に住む高齢者の皆さん方が「あまり健康と思わない」と言っているという傾向も出ています。ですから、ひょっとしたら「農業や林業に携わることによって健康が維持できる」という裏付けにもなるのではないかな、というデータです。ただし、元気に働けてい

ても、「薬を飲んでいる／通院している」という方は相当いらっしゃるということがわかります。

(3) これからの農山村の目指すもの

3つ目に、やはり地域にある資源を大事に活用しながら循環していく取り組みが必要ではないかと思っております。

私どもの地域も、2月14日の大雪の時には積雪が1メートルもあったところをございまして、停電が1週間続いて孤立した集落もありました。しかし、そこに住まわれるお年寄りはずごく強いのです。また、隣同士の助け合い、絆が本当に素晴らしいのです。今は電気製品が多いので停電時に暖をとるのも大変ですが、掘りごたつがあります。もちろんプロパンガスの恩恵もありましたが、炭や薪の恩恵も相当あったようです。それらは地域の「自然資源」であります。また隣同士の助け合いというのは、言わば「人的資源」ではないかと思いました。やはりエネルギーも食も、ある程度は地域で自給できるような、そんな農村の姿が望ましいのではないかと改めて感じました。

私どもの地域は大変広いわけですが、合併して20年も経ちますと、遠くのところの組合

ふるさと農村の力を活かす ②地域資源で人づくり

◆農業と健康寿命(医食同源・身土不二)
・土と共に生きる農村の素晴らしさを実感
→人は土から恵みを受けて成長し、やがて土に還る人は、土を耕すことで、心が癒され、元気をもらい優しさを得て、厳しさを学ぶ

《土に立つものは倒れず、土に生きるものは飢えず
土を守るものは滅びず》

東京農大初代学長 横井時敬氏

ふるさと農村の力を活かす ②地域資源で人づくり

これからの農山村の目指すもの

◆森林資源を活用したエネルギーの自給、農業生産を通じた食の自給、人々の力の相互補完の自給、こうした農村特有の資源の一体化を進める
要するに《生きる・働く・暮らす》の一体化である

《管内の住む人々の多くは、顔見知り》

家族愛・地域愛の深い人々の集まりを大事にしたい

員の皆さんでも、どこに住んでいるかがよくわかるようになります。そういう意味では、管内の人口はあまり多くはありませんが、「本当にみんなが仲間だなあ」と日々感じられることに感謝をしているところです。

(4) 地域住民が求める6つの願い

いずれにしても、今後も人口減少あるいは高齢化は進んでいくと思います。しかし、そうした現実から逃げるわけにはいきません。

坂野百合勝先生曰く、「地域住民の皆さんが求める願い」は6つあるとされています。

- | | |
|-----------------|----------|
| ① 一定の収入を確保したい | →経済面の願い |
| ② 健康で安心して長生きしたい | →身体面の願い |
| ③ 心豊かに暮らしたい | →精神面の願い |
| ④ 快適な環境で暮らしたい | →環境面の願い |
| ⑤ 人のために役に立ちたい | →社会貢献の願い |
| ⑥ 自分が主役で活動したい | →自己実現の願い |

残念ながら「経済面の願い」という部分では、私どもの地域は立地的にはやや不満があるだろうと思います。しかし、残りの5つの部分は努力次第で叶えられると思うのです。ですから、この辺を我々が協同組合としてどのような形で支援してあげられるのかを考える必要があると思っています。

こうした住民の願いを叶えるひとつのよい手段は、組織をつくることだと教わっております。したがって、大きな組織よりも小さな組織、あるいは集める組織よりも集まる組織、そんな組織づくりの支援活動に現状は取り組んでいるところです。



4. JA 愛知東の取り組みの一例

(1) 組合員組織の育成活動

私どものつたない取り組みではありますが、一例をご紹介します。

最初が、組合員組織の育成活動です。こうした組合員組織は、全国どこかのJAでもあるだろうと思います。ただ、それぞれの組織が自分たちの活動として、自賄いも含めて取り組んでいただいています。そんなところが私には大変いいなあと考えております。

細かいところは申し上げませんが、たとえば合併以来ウォークラリーを続けており、もう50回になります。もちろん、この活動は健康維持・増進にもコミュニティにも効果があります。ただ、管内は大変広いので、「やっぱり自分の地域はすばらしいなあ」ということに自分たちで気づいていただくためにもこの活動は大変大事ではないかと思いつながり続けており、毎回150名前後の方に参加いただいております。

(2) 女性部活動

私たちの女性部は地域から立ち上がっているのではなく、小さな目的別の組織が核になって大きな女性部の組織ができています。今は77個ぐらいのいろいろな目的別の組織があ

り、楽しく集まっています。

昨年もまた新しい組織が立ち上がりました。10人でスタートしていただいた組織で、環境問題の勉強会をされています。リサイクルやごみの適正分別、輸入野菜の現状などの勉強会のほか、国道や県道沿いの花壇整備などもやっていただいています。スタート時は10人だったメンバーが、今はもう20人ぐらいになったと聞いています。

ご紹介しているのは一部ではありますが、ほかにも女性部の活動として、みそ造りや親子料理教室などもやっていただいています。

(3) 軽トラ市への参加

「軽トラ市」は4～5年前から始めさせていただきました。今は日本の三大軽トラ市の1つになったということで、月末の日曜日に新城市街を通行止めにし、トラック80台くらいがまちに繰り出して軽トラ市をやっています。女性部の皆さんにも農業者の皆さんにも参加していただいています。

(4) 助け合い組織

「助け合い組織」は、私たちの組織の中で最も自慢できる組織の1つです。この組織では、たとえばお弁当を作って配食をするなど

して、さまざまな助け合いの活動の原資にしています。よそから補助金をもらったり、JAからお金を送ってやっているところもあるようですが、彼女たちはいろいろな知恵を絞り、自ら活動の原資を稼ぎ出して助け合い活動をやっているんですね。手前味噌かもしれませんが、これは本当にすばらしい活動だと私はいつも思っております。

(5) 子ども農学校

「子ども農学校」の活動はもう10年目になります。半年間いろいろなカリキュラムを組んで、子どもたちに農業体験をしていただいています。この活動は、子どもたちに①故郷の価値を気づかせたい、②農業の意義を考えさせたい、③農業に携わる人の心に触れさせたい、という思いでずっと続けております。

(6) 就農林相談会

次は、「就農林相談会」です。私は新城設楽地域担い手育成総合支援協議会の会長をやらせていただいているのですが、ここのところずっと、地域外あるいは県外の若い人たちから「私たちのところで農業をやりたい」ということで相談に来ていただいています。今年も四十数名が参加され、東京からも来られた

女性部活動



みそ造り



パッチワーク教室



JA愛知東 フレッシュミズスクールさくら園



親子料理教室

子ども農学校



子供たちに

- ①故郷の価値を気づかせたい
- ②農業の意義を考えさせたい
- ③携わる人の心に触れさせたい



という話も聞いています。

地域事情からして、誰もが受け入れの対象になるというのはなかなか難しい部分もありますので、行政も含めていろいろな面接等を行う中で1割ぐらいの方が私どもの山村に入り、農業に携わっていただいています。

(7) 山桜の里山づくり事業

それから「山桜の里山づくり事業」という活動をしています。新東名高速道路が来年4月に開通し、私どもの新城市にも設楽原パーキングができます。新城市の木は山桜ですので、地元の高校生の皆さんに山桜の種を自分たちで採種し、苗木を2年かけて作ってもらい、それをパーキングエリアに植樹させていただきました。トータルで1,000本ぐらいの植樹をしました。

(8) 教育文化活動

そのほかにもいろいろな教育文化活動を行っています。少年野球や中学生のサッカー、バレーボール、ソフトボールなど、小・中学校のスポーツ活動にも相当力を入れております。一昨年から剣道の組合長杯も実施をさせていただいております。

こうした教育文化活動は、「いろいろな面で若い人、次世代の人たちと関わりを持っていく必要がある」ということで展開をしているところです。

(9) 結婚相談活動

結婚相談所も1994年に立ち上げました。私は名ばかりの所長ではありますが、相談員の皆さんはボランティアで本当によく活動いただいております。皆さんのお世話の中で83組の方が結婚されました。

5. 地域に容認される J A を目指して

最後に、私たち J A 愛知東の基本的なスタンスです。それは「農村と農業をどうやって自立支援していくか」がメインになると考えております。そのためには、やはり自分たち J A 自らも自立の道も探らなければいけません。いたずらに「農業や農村の自立を」と言ってもそれは難しいわけですので、その辺を含めて活動させていただくことがひとつのスタンスでございます。

最後に、むすびのお話を。「3つの幸せ運動」は単純な話なのですが、まず地域に住む人たちが自ら健康で自分のことがやれるという幸せ。そして、大変な時には人さまから助けていただけることの幸せ。そして、地域や皆さんに支援できることの幸せ。この連動ができるような地域・社会づくりが、めざすべきところではないかと思っています。

そして、「3つのしんか(真価、進化、深化)」については、いろいろなところで言われている通りであります。J A としての本当の真価をどうやって探っていくのか。あるいは、今より進化していくためにはどうしたらいいのか。あるいは、地域や組合員の皆さんともっと深い関わりを進めていくことが必要ではないか。これはよそからいただいたような言葉であります。こうしたことを目指してやっていく必要があると思っています。

いずれにしても、地道にコツコツと、木の年輪のように少しずつ地域のために、あるいは組織として成長していければ幸いです。

(文責：調査研究部)